

ニッセイ CSRレポート ハイライト 2010

子どもたちの幸せな未来を願って



未来に輝く

「大切に 「まわりの人を

この冊子は、当社の
長期にわたって続けてき
未来を担う「子ども」に焦点
ニッセイは、子どもたちの「たくましく
支えたいと



子どもたちへ

「生きよう」 「大切にしよう」

CSRへの取組のうち、
た社会貢献活動のなかで、
をあててご紹介したものです。
「生きる力」や「思いやりの心」を育み、
願っています。



- 子どもたちの未来につなげる 豊かな森
ニッセイ未来を育む森づくり…………… P4
- スポーツを通じて願う 健やかな成長
ニッセイスポーツ教室…………… P8
- 時をこえて 心に残る。友情、勇気、そして夢
ニッセイ名作劇場…………… P12
- 自ら学び、考え、そして、たくましく生きる力
子どもたちへの保険教育…………… P14
- 社長メッセージ…………… P18



子どもたちの未来につなげる 豊かな森

ニッセイ未来を育む森づくり

豊かな地球環境を保護し、子どもたちに引き継ぐことは重要な課題です。ニッセイは、温暖化の議論が本格化する前から森づくりに取り組み、平成4年に「ニッセイ100万本の植樹運動」をスタートしました。そして、100万本を達成後、平成15年からは、「ニッセイ未来を育む森づくり」として、自分たちが植えてきた木々を、美しく豊かな森にしていくことに力を入れています。

森は水を生み、CO₂を吸収し、多様な生物を育みます。大きな森となるには何十年とかかりますが、これからも息長く森づくりを続けていきます。



ニッセイ筑前の森 (福岡／平成22年植樹)
「植えた木に名前を書きました。いつか、大きくなった木を見に来たい。」

*ニッセイ緑の財団とともに活動

日本全国
180カ所のニッセイの森

平成21年度までに125万本を植樹しました。

18年間で
2万人のボランティア

苗木を植え、森を手入れする活動に、地域の方々とともにニッセイの職員も参加しています。



ニッセイ別府の森(大分/平成21年植樹)
「子どもと一緒に汗を流すことができました。」



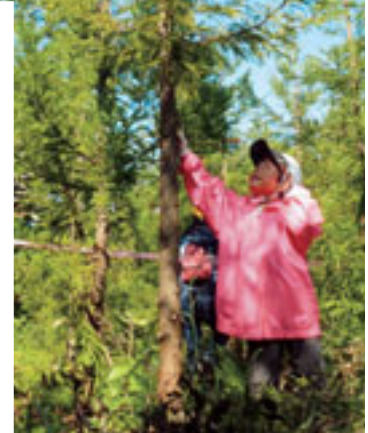
ニッセイおのがみ小野上の森(群馬/平成19年下草刈り)
「順調に育っていて嬉しい。豊かな森を未来につなげていきたい。」



ニッセイ富士の森(静岡/平成20年下草刈り)
「下草刈りは大変。でも、終了後はいつも達成感・爽快感でいっぱい。」



ニッセイしわ紫波の森(岩手/平成22年枝払い)
「僕と同じ10歳の木。びっくり!こんなに大きくなるんだね。しっかり手入れをしてあげる。」



「集まれ、エコキッズ！」—森の大切さを学び・体験する—

子どもたちに、森の働きや森を育てるための活動をもっと知ってもらいたいという思いから、今年度、子ども向けの環境教育をスタートしました。

ニッセイ森の探検隊

富士宮市（静岡）、加東市（兵庫）の2カ所で「ニッセイ森の探検隊」を開催。子どもと保護者70人が参加し、自然観察などを通じて森に親しんだ後、大切な森を守るために必要な作業を体験しました。



さあ、森の探検へ出発だ！



お母さんと一緒に自然の宝探し。発見したもの…松ぼっくり、きのこ、バッタ、いのししの足跡。森にはたくさんの生き物がいました。



紙芝居を使ったていねいな説明。日本の国土の70%が森林であることを知りました。



不思議な形のきのこを発見。お父さんと一緒に名前を考えました。



森を大きく育てていくために、必要のない小さな木を切りました。

ニッセイ森の教室

全国で展開する来店型店舗「ニッセイ・ライフプラザ」において、子どもたちを対象とした「ニッセイ森の教室」を開催。子どもと保護者約1,440人が参加し、「地球温暖化を防ぐ」「水を守る」「生き物を育む」といった森の働きを楽しく学びました。



食物連鎖のピラミッド。子どもたちが一生懸命考えて完成させました。



間伐材を使った時計づくり。木材を長く使うことの大切さを知りました。



クイズに答えながら「森の働き」を楽しく学びました。

初めて木を植えた日 やまうち 山内 まみさん

平成8年4月、当時10歳だったまみさんは、ニッセイで働く母、圭子さんと「ニッセイ富士の森」の植樹に参加した。母には、「自然環境を大切にすること、娘と一緒に肌で感じたい。」という思いがあった。

まみさんも、大好きな富士山に行くことが楽しみだった。

当日は天気が悪く、富士山は見えなかったけれど、それでも大満足。学校で友達に自慢した。

「私が植えた木が富士山にあるんだよ。」

あれから14年。

まみさんが植えた木々は約5メートルにまで成長している。まみさんも結婚して、今は夫と二人暮らし。

「森が大きく育つには時間がかかるんですね。」

「ニッセイ富士の森」の写真を見ながら、まみさんは続ける。

「私にはまだ子どもはいないけれど、すばらしい自然環境を残してあげたい。いずれは、母と、夫と、私と、私の子どもと、みんなで一緒に森づくりに参加したいです。」



洋品店で店長を任せられているまみさん(左)と母・圭子さん(右)。仕事では、お客さまから古着を回収する取組を率先して進めています。(丸囲みは、平成8年、「ニッセイ富士の森」に参加した時の母子)



スポーツを通じて願う 健やかな成長

ニッセイスポーツ教室

子どもの体力低下が社会的な問題となるなか、スポーツの重要性が注目されています。また、チームワークの大切さを学ぶ、ルールやマナーを守るなど、子どもたちにとってスポーツは、社会で生きていくために必要なことを身につける機会にもなります。

ニッセイ野球部・女子卓球部は、子どもたちが心身ともに健やかに成長してほしいとの思いから、全国各地でスポーツ教室を開催しています。

平成21年度は

全国**4,356**人が参加

野球教室は11カ所、卓球教室は8カ所で開催。地元の小中学生たちが多数参加しました。





最初はできなかったけど、親切に教えてもらったので、少しずつわかってきた。これまで以上に野球が楽しかった。(宮城)



いつもと違う方法で教えてもらった。「あっ、なるほど!」とすぐためになった。(沖縄)



一流の選手に、バッティングをほめられた。いっぱい練習してもっと上手になりたい。(沖縄)



「夢や目標を持つだけではなく、それに向かって頑張ること。」そのことを子どもたちに伝えたい。(兵庫/ニッセイ野球部員)



「基礎練習をきちんとすればピッチャーになれるよ。」と言われた。頑張って練習して、いつかエースになる!(沖縄)

ニッセイスポーツ教室



グリップの握り方などの基本からフォームを教えてもらえて、とても勉強になりました。(山口)



テレビで見たことのある選手に直接教えてもらうのは緊張したけれど、実際にやってみたらすごく楽しかった。(山口)



格好いい！プレーが全然違う！ラリーができて感激！（熊本）

ニッセイのコーポレートスポーツ

ニッセイ野球部：

昭和4年創部。都市対抗野球大会の最多出場記録を持ち、3回の優勝を果たすなど、伝統と実績を誇るチームで、プロ野球選手も多く輩出しています。

ニッセイ女子卓球部：

昭和29年創部。日本卓球リーグ総合優勝12回、国内4大会制覇(グランドスラム)2回、日本代表選手も輩出する国内トップクラスのチームです。



都市対抗野球(東京ドーム)で声援を送る子どもたち

ニッセイ野球教室から夢をかなえた少年

しもしきりょう ゆう た
下敷領 悠太さん

(現・千葉ロッテマリーンズ スカウト)

「サイドスローにしてみないか?」

中学2年生の秋だった。下敷領さんは、チームメイトとともに大阪のグラウンドでニッセイ野球教室に参加していた。

自分に向けられている鋭い視線に気づいたのは、ピッチング練習を始めて15分ほど経った頃だろうか。腕を組み、じっとこちらに目をこらしているのは、強豪社会人チーム、ニッセイ野球部の選手だ。

一息ついた時、その人が近づいてきて、言った。

「君、サイドスローを試したらいいんじゃないか?」

夢の出発点になった一言

何を言っているんだろうこの人、と初め下敷領さんは思ったという。下手投げで成功しているプロ野球投手なんてほとんど知らない。下手投げなんて、遊びで試したくらいだ。

自分のピッチングのどこを見て、そうアドバイスしてくれたのか、今、振り返ってみてもわからない。けれど、その後の野球人生を決定づける一言だった。

「野球は楽しくやらずに」

ニッセイのユニフォームを着て、野球教室のグラウンドに立つ自分がいた。あの秋から、ほぼ10年近い歳月が過ぎている。目の前の子どもたちには、自分が憧れの



対象と映っているだろうか? 自分がかつて、そう思ったように。

みんな緊張している。そこで、子どもたちに問いかけた。「野球が好きかい?」

大きく頷いた。それでいい、好きだから僕も始めた、楽しいから続けられた。

キャッチボールをしながら、そんな話をしているうちに、笑顔が、その子からこぼれる。

「野球は楽しくやらずに、ね。」

野球教室が終わった後、下敷領さんの脳裏に決まって浮かぶのは、あの日のことだ。

「あの選手のように自分は今日、子どもたちに野球のすばらしさと楽しさを、伝えられただろうか?」

夢の恩返しは、これから

ニッセイ野球部から千葉ロッテマリーンズに下手投げ投手として入団した下敷領さんは、平成22年9月、ユニフォームを脱ぎ、スカウトの道を歩き出した。

プロになりたい子どもたちの素質や才能を見抜く目を一日も早く養い、大舞台で活躍できるチャンスを与えてあげたいと思う。「それが、プロになるという夢を実現できた僕ができる最大の恩返しです。」



今でも時間があれば、子どもたちに野球を教える



時をこえて 心に残る。 友情、勇気、そして夢

ニッセイ名作劇場

子どもたちの豊かな情操を育んでいきたい — 昭和39年、「ニッセイ名作劇場」はスタートしました。劇団四季が制作・出演するミュージカルに小学6年生を招待するこの活動も47年目。友情、勇気、夢といった普遍のテーマは、歳月を経ても色あせることなく、

世代から世代へと感動はつながっています。

また、平成20年度から、劇団四季がスタートした「こころの劇場」(全国の小中学生を対象とした招待公演)にメインスポンサーとして協賛し、より多くの子どもたちに感動を届けています。

*ニッセイ文化振興財団が主催

715万人を招待

平成21年度の招待数は約16万人。小学6年生の約7人に1人にあたります。



子どもたちから寄せられた感想文

4,553回の公演

上演作品数は、初演の「はだかの王様」から、平成22年度の「嵐の中の子どもたち」まで、23にのぼります。



左は初演(昭和39年)、右は今年度のパンフレット

親子2代で観た「ニッセイ名作劇場」

にしだ ちえ あやな
西田 千恵さん・彩七さん

母・千恵さんの記憶

母・千恵さんは、長女の観にいくミュージカルの題名を聞いて、不思議な感慨にとらわれた。

「あの日と同じミュージカルかしら?」

記憶は鮮やかによみがえる。

昭和54年、「ニッセイ名作劇場」で、「人間になりたがった猫」が上演された時、日生劇場の1階席に小学生の千恵さんは座っていた。

大きく立派な劇場、赤い絨毯が敷かれた広いエントランス、珍しい螺旋階段、重い扉を開けた向こうには見たことのない空間が広がっていた。生まれて初めて観たミュージカルの時間は飛ぶように去った。

「どんな話だったろう、確か…。」

自信はないながらも、あの日以来、忘れることのできない劇中歌『すてきな友達』を彩七さんの前で口ずさんでみた。

「ふーん。同じ劇だったら、ビックリだね。」

「おんなじ歌だったね」

夕方、帰宅した彩七さんは、「ただいま」を言うなり、『すてきな友達』を大きな声で歌い出した。

『人はみんな誰でも一人では生きていけないから♪』

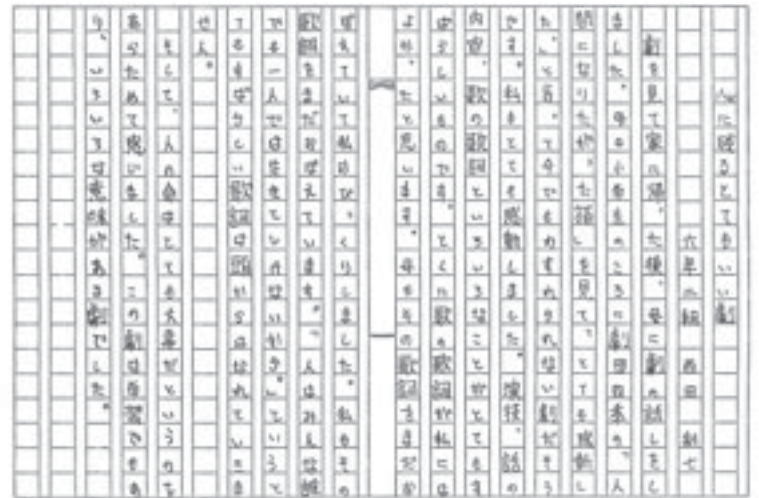
お母さんの驚いた顔を見て、彩七さんは思った。やはり同じ舞台だったんだな、と。

教えてくれた歌が本当に歌われた時、泣きそうになったこと、友達や家族がどんなに大切な存在であるか

ということ、ミュージカルを観て感じたことを彩七さんは一気に話した。お母さんは、何度も大きくなぞきながら、いつまでも聞いてくれた。



なつかしの日生劇場にて



西田彩七さんの感想文

娘・彩七さんの夢

彩七さんは、今年、中学2年生。水泳部で平泳ぎの選手だ。勉強に部活、ピアノのレッスン、そして友達と遊ぶことに忙しい毎日だが、ふと気づけば、あの時の歌のフレーズを口ずさんでいる。

『人はみんな誰でも一人では生きていけないから♪』

今の彩七さんがやりたいこと。

「動物が大好きだから、動物関係の仕事かなあ。でも…」と困った顔をして彩七さんは続けた。

「劇団に入って、人前で演じてみたい気もするし…」

彩七さんの夢は無限に広がっている。

「ニッセイ名作劇場」を
内覧いただいた総代*の声

ユニバーサル製缶株式会社
部長 渡邊 宏行様

会場を埋め尽くす小学生のエネルギーとパワーを感じました。

最近の子どもたちは、家の中に一人で閉じこもってゲームで遊んだり勉強をすることが多く、友達と一緒に楽しんだり感動を共有する機会があまりないのではないかと感じていましたので、みんなで一緒に真剣に舞台を見つめる子どもたちのいきいきとした表情がとても印象的でした。

*総代定数は全国で200名。ご契約者の代表として総代会に出席し、審議を行っています。



自ら学び、考え、そして、たくましく生きる力

子どもたちへの保険教育

ライフスタイルや社会構造が大きく変化する現代社会において、子どもたちが自分の価値観を磨きながら、たくましく生きる力を養うことは、大きなテーマとなっています。

「世のなかで生きていくために大切なことを、子どもの頃から自然に学べるような機会を」との声に応え、平成21年度から、小中学生向けの保険教育に取り組んでいます。



「わたしの未来設計図」を活用した授業風景(福岡/前原東中学校)
まえばるひがし
 「興味のある仕事について調べたことが、とても楽しかった。将来について深く考えることができた。」

中学生向けの取組

自分自身の将来設計を考える学校教材「わたしの未来設計図」を開発し、全国約660の中学校に12万部を提供しました。

また今年度は、「他校の活用例を紹介してほしい」といった先生方の声にお応えし、新たに「教師用指導の手引き(活用編)」を制作しました。



小学生向けの取組

保険のしくみや役割をまんがでわかりやすく説明した「保険のひみつ」を制作し、平成21年度、全国の小学校（約23,000校）と公立図書館（約3,000館）に寄贈しました。



「保険のひみつ」をすべての「夏休み保険セミナー」で配布

また、親子で楽しく保険会社の仕事を学ぶ「夏休み保険セミナー」を、全国56カ所のライフプラザで開催。小学生と保護者約530人が参加しました。



お客さまになった気分で窓口で質問（ライフプラザ豊橋）



お母さんと一緒にパソコンに挑戦（ライフプラザ粕）



保険のしくみをクイズ形式で学習（ライフプラザ鳥取）

初めての「夏休み保険セミナー」

「子どもたちに保険をわかりやすく伝えられるだろうか？」阿部は不安で一杯だった。2カ月前から準備を始め、公民館にも参加募集のビラを置かせてもらい、当日の運営に工夫を凝らした。

心配をよそに、いざ始まると、子どもたちは真剣そのもの。1時間半のセミナーはあっという間に終わり、多くの声をもらった。

「楽しかった。」「少しだけ大人になった気分。」

「保険ってお守りみたいだね。」

阿部は言う。「まだまだ工夫の余地はありますが、子どもたちに『保険の大切さ』を伝えていくのは、私たちの大切な務め。地道に続けていきます。」

あべ かよ
阿部 賀代
ライフプラザ大宮店長補佐



名刺交換を教える阿部職員

その他の子ども向け社会貢献活動

広がれ、元気っこ活動〈日本生命財団〉

昭和54年から、全国各地で、子育て支援・自然体験・伝統文化の伝承等の活動を行う民間団体に対して、活動に必要な絵本や道具、楽器等を寄贈しています。

全47都道府県

10,760 団体に寄贈



「まちがっているところはどーれだ？」(大阪／もみの木文庫)



「さあ、出発！上手に漕げるかな？」(熊本／自然塾「山学校」)

日生劇場国際ファミリーフェスティバル〈ニッセイ文化振興財団〉

約**205,000**人が鑑賞

平成5年から、コンサートやバレエ、日本の伝統芸能等、家族で本格的な舞台芸術に触れる機会を提供しています。



こどものためのおもしろ狂言「えれきてる」(撮影／鏑山英次)

ドングリ学校〈ニッセイ緑の財団〉

約**2,800**人が参加

平成15年から、小学校でドングリから苗木を育て、公園へ植樹するという授業を行っています。



「どれにしようかな？元気に育ててね。」(東京／南大沢小学校)

あゆみ

- 昭和38年
(47年前) 日生劇場開場
- 昭和39年 「ニッセイ名作劇場」公演開始
- 昭和54年
(31年前) 「広がれ、元気っこ活動」スタート
- 平成 4年 「100万本の植樹運動」スタート
- 平成 5年 「日生劇場国際ファミリーフェスティバル」公演開始
- 平成10年 「ニッセイ名作劇場」500万人
- 平成14年 100万本植樹達成
- 平成15年 「ドングリ学校」スタート
- 平成20年 「ニッセイ名作劇場」700万人
「広がれ、元気っこ活動」1万団体
- 平成21年 子ども向け保険教育スタート
（「保険のひみつ」、中学校教材、
「夏休み保険セミナー」）
- 平成22年 子ども向け環境教育スタート
（「ニッセイ森の探検隊」
「ニッセイ森の教室」）



ニッセイ名作劇場



「ニッセイ富士の森」に植えた苗木



社長メッセージ



「いいものを見た時の感激は、その人の一生を支配する。いいもの、ていねいに仕上げたものを見ると、人は『大切に生きよう』『まわりの人を大切にしよう』と思うものだ。」—— 昭和38年、日生劇場を設けた理由として、当時の社長、弘世 現の述べた言葉は、当社が長きにわたって継続してきた社会貢献活動の基本的な考え方にもつながっています。

子どもたちを取り巻く環境が変化していくなかで、子どもの体力低下やいじめなどが社会問題として取り上げられるようになり、家庭、学校、地域、企業などが一体となって、こうした課題に取り組んでいく必要性が高まってきています。

こうしたなか、多くのお客さまからも「若い世代の将来のために、日本生命として何かできないか」という声をいただいております。こうした声にお応えするために、昨年度から、生命保険事業を営む当社ならではの取組として、子どもたちに保険の大切さを伝える活動をスタートしています。

当冊子は、子ども向けの社会貢献活動を紹介しているものですが、これからも、当社は、未来を担う子どもたちが、社会を生き抜くための確かな力や知識を身につけていけるよう、さまざまな活動に積極的に取り組んでまいります。

そして、企業としての社会的責任をしっかりと果たすなかで、「お客さまに信頼され選ばれる会社」であり続けられるよう努力してまいります。

平成22年11月

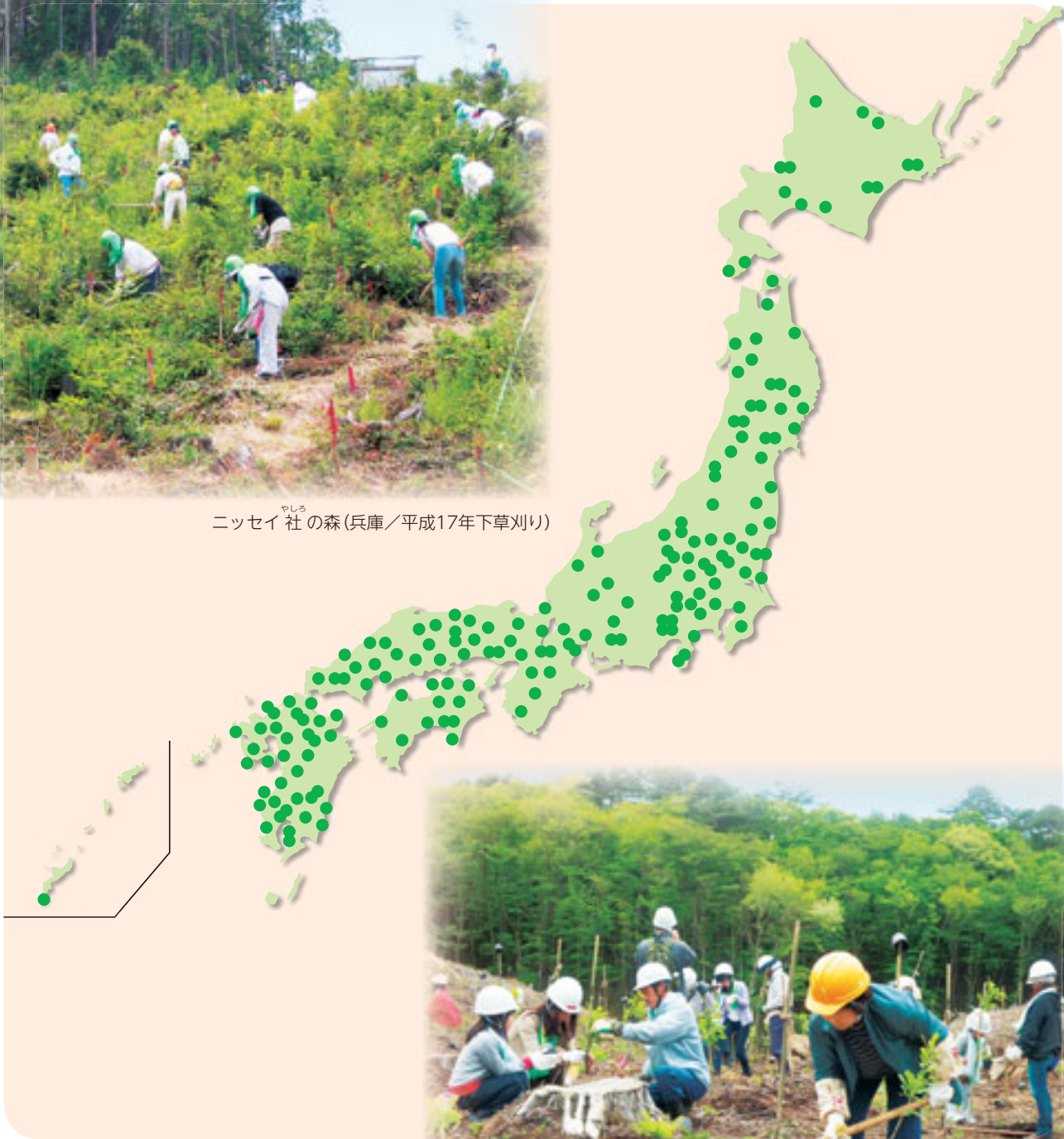
代表取締役社長

岡本 圀衛

ニッセイ未来を育む森づくり ～ 全国47都道府県で活動～



ニッセイ^{やしろ}社の森(兵庫/平成17年下草刈り)



ニッセイ^{ひたち おおた}常陸太田の森(茨城/平成22年植樹)



ニッセイ筑前の森
(福岡/平成22年植樹)



日本生命保険相互会社

NISSAY

編集後記

この冊子は、当社の子ども向け社会貢献活動の取組を、ひとりでも多くの方々にご理解いただきたいと考え、テーマを絞り込んだ上で、写真を多用して編集しました。

当社のこの他のCSRの取組や、関連する詳細データについては、ウェブサイトに掲載していますので、どうぞご覧ください。

企画総務部 CSR推進室

日本生命 CSR

検索

クリック



「ニッセイCSRウェブサイト」
CSRの取組や関連する詳細データを掲載



「ニッセイの社会貢献活動」
PDF版で掲載

生命保険のお手続きやお問い合わせ

〈ニッセイコールセンター〉0120-201-021 (通話料無料) 携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

受付時間 月～金曜日9:00～18:00 土曜日9:00～17:00(祝日、12/31～1/3は除きます。)

※プライバシー保護のため、お問い合わせお申し出は契約者ご本人様からお願いいたします。 ※お電話をいただく際には、証券記号番号をお知らせください。

※ニッセイコールセンターへのお電話の内容は、当社業務の運営管理およびサービス充実などの観点から、録音させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

〈ニッセイホームページ〉<http://www.nissay.co.jp> ※ご住所の変更等のお手続きや契約内容の照会、資料請求、ご相談等を受け付けています。